

中小企業政策研究（第3回）

平成23年8月23日（火）、環びわ湖大学・地域コンソーシアム事務所・会議室にて滋賀大学と滋賀県との連携による「中小企業政策研究」の第3回目を開催しました。

今回は、「事業構築とベンチャービジネス」と題して、滋賀大学産業共同研究センターの中井光男特任教授から講義をいただいたうえ、質疑応答・意見交換を行いました。

企業経営の目的は、使った経営資源に対しより多くの価値を創造すること、付加価値創造を最大化することであり、そのためには技術や商品によって顧客価値を創造し、つくりあげた顧客価値を企業の事業価値に結びつけることが重要であるが、近年、企業を取り巻く環境は悪化しており、商品開発がなかなか利益に結びついていない。

このような状況の中でも企業が長期的に成長していくためには、事業の世代交代を安全に行う必要があり、収益ピーク時に人材育成も含めて新規事業の育成にとりかからなければならない。

新規事業進出にあたっては、市場の成長性、自社のポテンシャル、他社との競合性の組み合わせのバランスが大切であり、時代の頭を掴むことが求められる。また、企業トップの情熱・執念は成否の鍵であり、トップが主導権を発揮することが重要である。

このように中井先生には、新規事業に進出する場合の重要なポイントのほか、業績が好調な企業の特徴やアイデア探索の手法を用いた保有技術の体系的な把握の重要性などについて解説していただき、それぞれに考察を深めました。

さらに、他社が模倣することが困難であるコア・コンピタンス（社風や企業風土）や、コア技術戦略による商品開発でコア技術を鍛え上げることが大切であるとされた。即ち、営業と開発が常に新商品開発の検討・発売を繰り返すことで、他社に真似のされにくい独自の無形組織財産が構築され、これは差別化や優位性を保つために非常に有効な手段であると強調され、本日の講義を締めくくっていただきました。



<中井 光男 特任教授>



<質疑応答の様子>